

第3回 ふくしま元気トーク まとめ



【開催概要】

日時	令和元年10月6日（日） 午前10時30分～正午		
テーマ	みんなで取り組もう！ごみ減量大作戦		
場所	こむこむ		
出席者	(1) 高橋恵子さん (2) 安澤恵美さん (3) 平井優子さん (4) 中村元彦さん (5) 高橋直希さん	(6) 佐藤周平さん (7) 村田正さん (8) 原田たみ江さん (9) 高山胤能さん (10) 齋藤孝雄さん	(11) 本田美代さん (12) 坂内まゆ子さん (13) 山岸孝志さん
(福島市)	木幡市長		

【1 市長あいさつ】

皆さんおはようございます。福島市長の木幡です。本日はお休みの日にも関わらず、ふくしま元気トークにご参加いただきまして誠にありがとうございました。

今回のテーマは、「みんなで取り組もう！ごみ減量大作戦」です。ご承知のように福島市は1人当たりのごみの排出量が他の都市に比べ3割ぐらい多いと言われていています。これを何とか減量できないかということで、市でもいろいろな取り組みをしています。やはりこういう取り組みは、いろいろな立場の人にもご意見を伺いながら進めようということで、地区座談会なども行っていますが、そういう地域という視点だけではなくて、もっと広い視点でお話を伺いたいと思い、本日は皆さんに集まっていただきました。その点では、年齢層も大学生の20代から80代まで、地域でご活躍いただいている方、団体としてごみ減量に関わる活動をしていただいている方、あるいは一般の方に集まっていただいております。また、ごみ収集事業者の方にもご参加いただいているので、収集している側の声も率直に伺いたいと思っています。

ご承知だと思いますが、こちらのごみ減量大作戦のパンフレットはご覧いただいたでしょうか。本市のごみ排出量は全国平均の1.3倍。ごみ処理費用には年間約40億かかっています。これはかなりの金額です。ごみの現状でいうと、ごみの構成を分析しまして、生ごみ、紙類、草枝類が上位3つですが、本市の特徴としては、資源紙がごみとして非常に多いということ。あとは草枝類です。これは都会にはまずないごみだと思えます。その辺が特徴として言えるのではないかと思います。

ごみの減量に関しては、ごみの集め方なども含め審議会に諮問いたしました。そこでいただいたのは、ごみの有料化は、日本でも6割の自治体はもう導入しています。そういった中で、まだまだ努力のやり方があるのではないかと、もっと努力すべきだということで、有料化については当面見送ることになっています。しかし、ごみ減量20%という目標を定めまして、令和3年度末までにこの目標を達成できなければ、有料化もやむを得ないというご意見をいただいています。市として有料化すると決めたわけではありませんが、達成できなければ有料化を真剣に検討しなければならないというのが現状です。

ごみの減量には、生ごみの水切りの徹底や、食品ロスの削減ということで「おいしい食べきり！2020運動」も推進していますが、とにかく食べ物のロスが非常に多いので、これを削減していこうとしています。分別の徹底では草枝類の処理や、生ごみの堆肥化の取り組みも推進しています。

いずれにしても、これから「3R」、リデュース、ごみを出さない、リユース、繰り返し使う、リサイクル、再資源化する、そういう3つのRに基づいた取り組みを進めていきたいと思っています。

【2 主な発言内容】

(1) ごみの分別について

- 分別の品目が細かいので各家庭でも大変なのは重々承知していますが、実際に現場で収集していると、体感で5割から6割が分別されていない状況です。
- 福島市では衣類の分別はやっていないです。衣類は燃えるごみなので改善していただきたいです。

- 紙ごみを十文字に紐で縛って出すのはやりづらと思います。娘の住んでいる町田市では、紙ごみは資源ごみで紙袋に入れて出せます。高齢者の方などが十文字に縛るのは大変だと思います。ぜひ回収方法について考えていただきたいです。
- 収集する側としても、段ボールの中にその他の紙やティッシュペーパーの箱を潰したものの、牛乳パックを潰したものが混ざっている状況があるので、回収時は全部一束一束ばらして回収しています。私たちも紐で十文字に縛ることについては、少し苦慮している部分もあります。

市長

●紙ごみの出し方については、市と事業者で考えなければならないと思いますし、私自身も紐で縛るといのは違和感があります。また、雑紙が回収されていないのは、非常に勿体ないので、この辺の紙ごみの集め方はもっと工夫する必要があると思っています。

●収集事業者の立場だと遠慮があるかもしれませんが、違った視点からどんどん提案してもらわないと気づかないケースもあります。十文字縛りの話のように気づいた点があれば、ぜひ声に出してほしいです。

(2) ごみの収集について

- ひとり暮らしの高齢者が重い新聞紙をごみ集積所まで持っていくのは大変です。月1回または週1回程度、玄関先に出しておけば、子どもさんが有志で回収してくれるような、お年寄りを助ける世代間交流を図ることはできないか。
- 私の地区では、缶、一升瓶、紙ごみ、新聞紙、雑誌、絵本など、玄関先に出してもらえれば回収し、地区の選果場に一旦集めています。重さが単価で収入になるので、それを育成会費に充てています。
- 収集側の問題点については、市内の3事業者とごみ減量推進課、警察署とで、年1回交通安全講習会を行う中で、意見や質問、要望事項などを出し合っています。そこで密にコミュニケーションを取りながら、その都度大きい問題点の改善や相談を行っています。
- 収集する職員は、ごみが分別されていなくても仕方ないからと回収してしまいます。やはり分別されていない場合には、一言「回収できません」と言うことも必要です。現場でどのようなことを重点的に行えるのか、実践的なことに力点を置いて進めていただきたいです。
- 収集する側としては、不適ごみのため収集しなかったごみであっても、市民の方からは「取りこぼしだ」「持っていかなかった」という苦情が入ります。ごみ減量推進課に現場を確認してもらいますが、「確かにこれは酷いごみなので置いていったのですね」となります。そういうことを繰り返して、二度手間、三度手間があります。そうすると、現場の若い者は、これぐらいだったら持っていこうかなという状況になってしまいます。
- 福島市のごみ出しは、全国でも福島県内でも市民に優しく親切ですが、だからこそ福島市はごみが多く出てきます。ごみを出せば何でも収集する福島市ではなく、45ℓの袋に必ず入れてもらい、それに入れないものは収集しないということを検討していただきたいです。

市長

●不適ごみについては、市民の方に分かり易いように赤いシールを張ることも一つですよ。赤いシールで「それはだめです」というぐらい、はっきり分かるようにして置いていくことが大事だと思います。

(3) ごみ減量に向けた意識改革・啓発方法について

- ごみ減量の取り組みは、主婦だけのお知らせやチラシを回覧しただけでは周知されないと思います。また、ごみを全部1つにまとめて袋に入れて捨てていく人は、そのことを何とも思っていない。その人たちの考えと実行の改革をしない限り、改善されないと思います。
- 大学生になるとひとり暮らしが始まります。自分でごみを分別し集積所を持って行くとなると、やはり面倒くさいなと思います。大学生や若い世代は、分別の意識が下がっていると思います。小学校での教育は十分足りていると思うので、20代や30代の世代に呼びかけていくことが重要だと思います。
- 市でもチラシを配布していると思いますが、大学生とかは表紙だけを見て、結局中身を読まないで捨ててしまうこともあります。それこそ、広報紙自体がごみになってしまうことが結構あるので、広報の手法についても、若い人向けにはツイッターなどを活用するのもいいと思います。

- ごみ減量大作戦のチラシは、市政だよりと一緒に回覧でまわりましたが、その時の回覧文書は7つくらいありました。どのくらいの人がこのパンフレットを見ているのかなと思います。このようなパンフレットは要点をしっかりと分かるように作ると良いと思います。

市長

- 身についた「ごみ出しの意識」というのは非常に強いです。そういう点では、福島市の取り組みが甘かったと思いますし、それが現状になっていると思います。一方でそういう現状だからこそ有料化して、みんなに意識改革してもらうのも方法としては考えられます。しかし、今は3年間の中で何とか意識を高く持ってもらいたいと考えています。
- 広報の手法も昔からのワンパターンで取り組んではだめですね。ただ、学生さん向けだけの広報とはいかないので、両方やらざるを得なくなるのが悩みでもあります。

(4) ごみ減量のための取り組みについて

- ごみ減量のためには、各町内会などに市の担当が積極的に出向いて説明しなければならないと思う。ごみ減量のための指導者推進員を導入したらどうでしょうか。各町内会などに配置して、指導する立場の方が腕章を付けて指導すれば、説得力があると思います。
- 大学構内に紙専用の集積所を設置したり、教科書は他の学年や後輩に譲るようなシステム、それぞれ図書館に寄贈するような取り組みができれば、大学での紙のごみは減ると思います。
- そもそもごみになる物が多いです。お店では惣菜も包装パックに、野菜もビニールに包まれています。野菜はそのまま買っても問題ないですし、冷蔵庫に入れた後に出てくるごみは結構あると感じています。何かお店自体にもごみを減らす、包装を減らす取り組みをしてもらいたいと感じています。
- ごみ収集日以外に出た紙ごみを学習センターなどに持って行くなど、単純に収集場所を増やすことは難しいですか。学習センターは、いろいろな活動をされているので、そのついでに持って行ける場所があればいいと思います。
- 各家庭でコンポストを買ったり置いたりする余裕はないので、学習センターなどにコンポストを設置することもいいのではないかと。家庭菜園をやる場合も、大きい袋で肥料を買うと重くて大変なので、生ごみを持って行くと肥料がもらえるとかになれば、お得感もあって参加しやすいと思います。

市長

- 市でも「ももりん文庫」という事業を行っていて、絵本の寄附を募っています。大学でも同じ教科書を使うケースが多いので、大学で実施するというの是一個の良いアイデアだと思います。
- コンポストの類は個人でやると結構大変です。その点では、学習センターで環境学習の一環としてみんなで取り組んでもらう。家庭から生ごみを持ってきてもらい、堆肥としてお裾分けすることで、意識啓発にも絡んで効果が出るのかなと思います。

(5) その他

- 除草した草の堆肥化については、例えば、市内に1ヶ所ある市民農園の場所に堆肥化できるスペースをつくって、市が回収することは難しいので、可能であれば持ち込みいただくことで、燃やさず堆肥化することも一つの方法であると考えています。また、市でPRしていることは、除草した草は翌日に出さないで、除草した草の水分を少しでも乾燥させることです。それだけでも協力いただけるとごみの減量につながります。(環境部長)
- (株)JAC蔵王資源リサイクル工場に研修に伺いましたが、そこでは、再生可能エネルギーのことを考えていて、集められたごみを分別し、リサイクルしてストラップなどを製品として販売したり、ごみを燃やした熱源をシイタケ栽培に利用したりしています。このような例からも、熱源や材料のリサイクルということも考えていくべきだと思います。

【3 まとめ】

本日は、いろいろと皆さんには調べていただいたり、現物もお持ちいただいたりして、本当にありがとうございました。いろいろなご意見いただいて、我々としても、もっと踏み出して取り組まなければいけないと思っています。家庭の消費者だけではなく、事業者にも頑張ってもらわなければいけないと思います。

例えば、私もよく宴会へ行きますが、大体どこも同じ量の食べ物が出されます。量が多い方がいいという人もいるかもしれませんが、むしろ量は少なくていいという人も多いと思います。ですので、減量メニューみたいなのがあってもいいと思っています。そういうことがなかなかできていないのが現状で、そこは誰かが実行すればいいというのではなく、みんなにごみ問題について考えてもらい、本当にみんなが意識を持って取り組めば解決することも多いと思います。そういうことを我々も考えて、これから集中的に取り組みを進めてまいりたいと思っています。

本日はお休みのところ、お集まりいただきまして本当にありがとうございました。これから我々も、しっかりと進めてまいりますので、そのときに何かお気づきがありましたら、担当のごみ減量推進課にお話をいただければ幸いです。本当に皆さんありがとうございました。

参加者の感想

- 市長をはじめ、学生、主婦、法人の方たちが一堂に会して話し合う機会を持てることに大きな意義を感じました。
- 参加者の思いが強く時間が少なかったと思います。若い方から新しい取り組みの意見が出されるなど、良い話し合いができたと思います。
- 少し対象を狭めて（女性、高齢者、事業者など）対象ごとに意見を聞いてほしいです。
- 各小中高校の父母会に飛び込むのはいかがでしょうか。テーマを決めて、各学校を順にまわり意見を聞くのも良いと思います。
- 市の取り組みは、市政だより等で拝見していたため新たな発見は少なかった。世代間の背景の違いから議論の深まりが難しいと感じたので、今回のような会とは別に世代別でも開催して頂けるとありがたいです。紙袋での紙ごみ回収を一日も早く実現してほしいです。
- 市政を身近に感じてもらう事業が「形だけの集い、見せるための集い」に終わらせてしまったのでは、せっかくの企画が生きてきません。市民のみならず、これからの時代を担う人たちにどう浸透させ、みんなで実行していくかが、この事業の成否を握っていると言えるのではないのでしょうか。
- 小さなことでも実施できることを出してほしかった。参加者の選定は慎重に。かつ実際に取り組んでいる人たちが良い。地区ごとに実施策を決定し、代表者が今回のようなトークで発表してみてもどうか。
- 町会単位でごみ減量対策を進めてほしい。
- 司会は担当部門の部長や課長が行った方が気軽に話せるのではないかと。事前に予備練習は無理でしょうか。出席者が顔見知りになることで討論がスムーズに進み、内容ももっと充実するのではないのでしょうか。

